

資料1 テーマ3「ふるさと中川学(仮称)」を学校と地域が協働して行う仕組みの整理

項目	グループ1	グループ2	グループ3
①多くの地域の人々や関係者が講師やサポーターとして学校に入ったり、子どもを受け入れたりしやすくするための仕組みは？	・信州型は学校が求めていると見えていかない。国型は教育委員会が主体。 ・先生忙しい。地域とのつながりを専門にやる人が必要 ⇒コーディネーター 地域が入って先生が楽にならなければいけない 地域を授業で使う。農業、自然など。地域の人と一緒に コミュニティスクールは地域とつながることが目的になっている。もっと活用する ふるさとで遊ぶ時間を ・地域の人が学校の取り組みを知る機会が必要 校庭整備などへ幅広く参加できる機会を増やす 進学などで学校とのつながり切れてしまう。気軽につながりを持てるとよい、卒業しても寄りやすくなるような場所に、行事への参加など ・学びの流れ 低学年 ふるさとで遊ぶ (知る) ➡ 高学年 ふるさとと遊ぶ (深く学ぶ) ➡ 中学校 自ら考える 大きなテーマが必要	・何をしたらよいかわからない ⇒アドバイスできる人が必要 ・受け入れ体制がまだ確立できていないのでは 登録制、見える化 職場体験、農業体験、地区探検、望岳荘、大草城址公園 情報発信、新聞とか(やっていること) ・子どもへの声かけ、心構え ⇒型にはめないこと大切 ・農業体験に絞って検討 開墾するところから始める。伴走者が必要 学校の畑と一緒に作業、地元の人が出向く どの学年でも OK りんご農家で体験(すべてのりんご農家が対応できない) ・取り組む上での課題 夏場は暑くて農作業ができない。授業時間に合わない場合も 何を学んでもらうか、そのために何を体験してもらうか 多様性を学んでほしい	・村の素材とどの授業が合致するか 素材で使えるものがあれば、サポートしてもらえることを増やしておく ・人が当たり前に来ていただける場所(学校)に 来てよいですよと言われると喜んで来校してくれる ・発想の転換が必要 ⇒子どもが地域に出て行く活動も 〇〇の集会所で授業しよう 〇〇地区を巡ろう スクールバスを用意してもらう 今、東西お互いに分からない部分多い、低学年の内に全地区をまわる。どこに何があるか知る 畑等経験がない先生にはむずかしい。農家でなくても家庭菜園をやっている人なら大丈夫ではないか 職場体験、見るだけでなくがっつりと働く体験を。期間ではなく、受入先が必要な時に入れるようにする
②新たな学校の学びのために、どのような人材が必要か？	・人材バンク ・報酬があるとよい ボランティアのきっかけになる。逆のパターンもあるか(入って来にくくなるなど)	・学校と農家をつなぐ人が必要(いたらサイコー) ⇒コミュニケーション、いろいろ知っている、顔広い 外部の人を受け入れるスキル持てる JA 営農指導員、PTA、祖父母の会←掘り起こす必要あり 一本釣り 既存の会を活用する ↑ 少なくなってきた 気軽に参加してもう 異学年で行う 上の学年が下の学年を教えるよさ ・農業体験を支援する人材 親、協力できる地域の人 移住してきた農業やりたい人 子どもがいなくても学校につながりたい人 農地がなくて農業やりたい人 大人にとっても学びの体験になる	・協力してくれている人は多いが、決まった人になっているか ⇒今から少しずつでも集めていかないと、どう広げるか？ 自分のできることを挙げてもらい、こちらから声をかける 子どものために何ができるか ・人材バンク ⇒コーディネーター 保護者以外が入りやすい。今からやっていく。抵抗があるのでは 給食をどなたでもどうぞ(予約でなくても) 呼び込む仕掛け ・公民館的役割(施設)をつくる 施設、仕組み、人材 お願いしたいことがある人 事例 高森町:地域お助け隊 お茶のみ相手とか喜ばれる 自己肯定感上がる ・ボランティアの方が、ハードルが高いか？(募集の仕方の工夫) 「ボランティア」という言葉に抵抗があるのでは… 想いが強くないと…、と感じてしまうのでは 「手伝ってください」と募集すれば良いのでは…

			子どもや孫がいないことを理由に学校が遠くなっている人をどう取り込むか 楽しさ、夢や希望がないとわざわざ学校に来ない、持ってもらう有償(少し…)の方が来やすいのでは… 運動会にボラ募集 卒業生(学生)とつながり、参加してもらうのもよいか
③これまで協議してきたことを実現するために、新たな学校の校舎に求められることは？	・図書館(おしゃれ・カフェ)・公立図書館と一緒に 保育園くらいの子どもを連れて行ったら小中学生が本を読んでくれる ・目的があると入りやすい ランチルームでコーヒーが飲める 寄って本が読める 常に学校へ回って行く巡回バスがある 学校がやっていることを展示する ・チャオの展示スペースなどで募集をかける そうした場所が校内にもあり、情報発信する ・こんな学校施設に 校門いらない 玄関をフラットに 教室の壁は必要か 仕切りがあると敷居が高くなる 一階に集中していると入りやすい 生き物、熊、チャボ、動物園とまでは言わないが…	・こんな学校施設に 市民農園にする 近くに畑、洗濯機、手足が洗える場所、屋外シャワールームなど 学校の中に川が流れている 土足、地下足袋で校舎に入れるスペースを作る BBQできるスペースがある 静かなゾーンと騒げるゾーンの住み分け 木登りできる「木」、実がなる「木」 動線確保 気楽に入れる 情報交換できる場所、地域の人が集まれる場所 フリースペース、カフェ、お茶が飲める 大人が楽しい場所が必要 大人も子どもも一緒に集まれる場所 開放的あずまや 親子で遊べる場所	・こんな学校施設に 地域に開かれた学校 ⇔ セキュリティを考えるとむずかしい 体育施設の充実 エアコン必要(暑すぎて活動できない)、体育館は2つほしい 小川が流れているとよい 児童生徒も先生も一人になれるようなスペースが必要 昇降口 上下履きをなくす、靴のまま入れると気楽 ショッピングモールみたいな場所 外から入ってきても楽しめる空間を残しておく 学校の敷地内に畑をつくってしまう
④その他	・ビジョンが必要 ⇒みんなが「どんな子を育てる」イメージを共有する必要がある ・村民全員に公募をかけて興味を持ってもらう 学校名、校章、校歌、制服など		・外に向かって何かやっていく 修学旅行2回あるなら、物販(学校の野菜とか)するとか、外国人にプレゼンするとか 卒業生が外に出て何かやってもらえるとよい 中川村の魅力を発信する、子どもたちからSNSで発信する 大人がサポートしながらやっていく 今の子と卒業生とのつながり ⇒ 大学生くらいがよいか 中2で村のプレゼン授業とか ⇒ 低学年からつなげて ・キャリア教育、未来の自分と触れられる機会に ⇒ふるさと中川学(仮称) 将来中川に戻ってきてほしいため？ 外から中川を見ることができる、村とつながっていける取り組み 戻って来なくても、つながっていてくれる人をいっぱいつくる 例:白川郷学園 中川村を舞台にどう学んでいくか？

- まとめのワード
- ①・②

国型のコミュニティースクール、コーディネーター、人材バンク、有償、卒業生(学生)、公民館的役割、地域の方に来ていただく活動や仕組み、児童生徒が地域へ出て行く活用や仕組み 等
- ③

地域に開かれた学校(地域の方が寄り安い学校、ごちゃまぜになれる場所) 図書館、カフェ、農園、林、小川、交通手段、情報発信、セキュリティの確保 等
- ④

ビジョン・どんな子を育てるかのイメージを共有、将来中川村に戻ってきてほしいための教育？⇒戻ってこなくてもつながっていてくれる人をいっぱい育てる、村民全員が参画、子ども達が SNS 等で魅力発信 等